古典を活かした滋賀の旅の創造に向けた検討
―石山寺を事例として―
Study of the creation of travels in Shiga by utilizing classical literature: Case study of Ishiyamadera Temple

安　藤　哲　郎
Tetsuro ANDO

滋賀県の集客上位の観光地は自動車で行くことが前提の観光地が多く，歴史遺産は多くない。石山寺は歴史遺産の旅の目的地となり得るが，京都の人々が何回も訪れたいと考え，京都の人々との結びつきの非常に強い寺院であるとイメージされ，日帰り・宿泊を都合に応じて選択して盛んに参詣を行っていた。石山寺を目的地とした旅のプランは，京都とのつながりを重視した内容で構成することが歴史的な経緯から考えても妥当である。

キーワード：滋賀県，石山寺，舞台，古典
Key words：Shiga Prefecture, Ishiyamadera Temple, staging area, classical literature

Ⅰ　はじめに

2024 年の NHK 大河ドラマが紫式部を主人公にした「光る君へ」に決まったことが発表された[1]ことを受け，滋賀県の三日月大造知事が石山寺をアピールしていた[2]が，その後「大津市大河ドラマ『光る君へ』活用推進協議会」が設立されており，そこに石山寺も関係している[3]。

滋賀県を舞台の一部とする大河ドラマはこれまでにもいくつかあり，その第 1 作「花の生涯」が井伊直弼を主人公とする物語であったが[4]，滋賀県の自治体には大河ドラマや時代劇を契機とした観光の推進に積極的な面が見られる[5]。

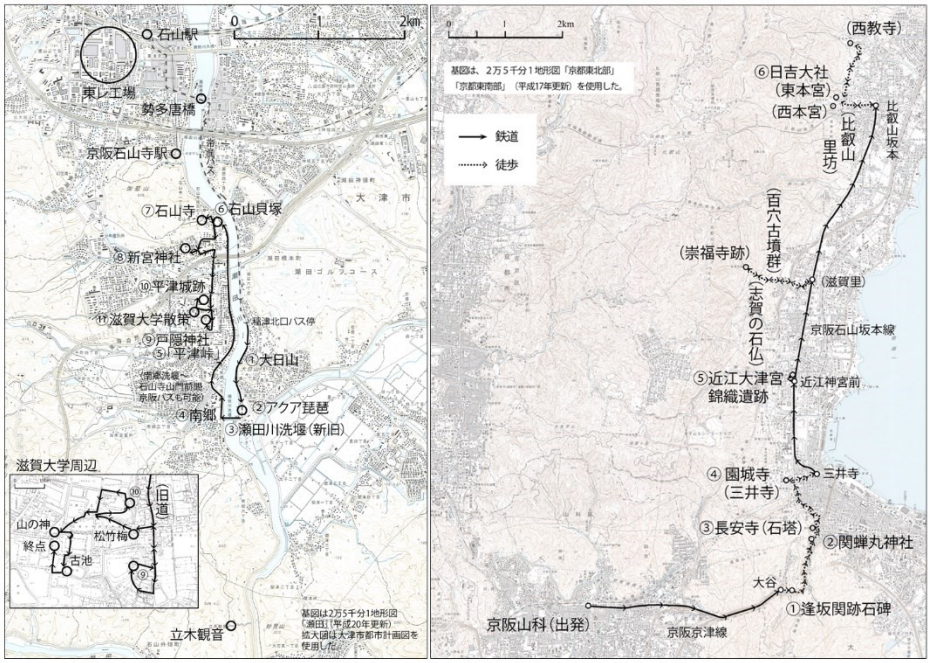
近江・滋賀と旅・観光についての結びつきは，現代だけの話ではない。上記の石山寺は清水寺や長谷寺と並ぶ観音霊場であり参詣者も多く，「石山詣」のことが作品にも登場する[6]。また近世の旅の目的地としても繁栄しており，青柳（2006）は，近世の名所記にある京都－近江間旅行コースの分析から，近江の湖南・湖西地域が京都の「郊外行楽地」とも言うべき位置にあったとしたほか，石山寺をはじめとした近江八景の旅行目的地としての繁栄，伊勢参詣との結びつき，西国三十三か所巡礼と湖上航路の活用などを概括した[7]。近代については，永瀬（2019）が，1930 年代の大津が「遊覧都市」の実現を企図した都市計画を策定したことを示しつつ，滋賀県発行の観光ガイドブック『観光の近江』掲載の観光資源と鉄道駅や街路網とのアクセスを

比較し，都市計画街路が観光資源への公共交通機関利用後の徒歩による到達のし易さ，資源相互の結節・ネットワーク化をより向上させる形で配置されていたことなどを明らかにした[8]。

一方で，コロナ禍前の2019（令和元）年の観光客数について，滋賀県は54,036,100人（延べ観光入込客数）[9]であるのに対して，京都市の観光客数は53,515,000人[10]となっており，ほぼ同規模である。京都市は観光都市として国際的にも有数の位置を占めるとはいえ，県全体の観光客数が同規模ということから考えても，さらなる観光振興に向けた余地はありそうである。

他方，筆者は昨年度から，「古代・中世の古典の舞台に関する地理学的分析と成果を活用した旅のプランの創造・提案」という研究課題で科学研究費の交付を受けることになった。ここでのミッションとしては，古代・中世の古典の舞台となった地を地理学的に分析するとともに，その成果を活用した旅のプランを創造し，Webサイトなどを通じて提案する，というものである。

この研究課題を思い付いた背景として，京都大学の全学教養科目として2014年度から2019年度まで開講していた「地理と古典を活かした京都の旅の創造,提案A／B」がある。筆者が通史的に扱った毎週の内容に関わる旅のプランを作成して提示し，課題として学生にも旅のプランの作成を求めるという形態で進めたもので，授業の概要などについては既にまとめている[11]。



重層的に時代を刻む
石山・平津地域（第2回）

大津の役割（第6回）

図1　2022年度「地理学からの問い」で提示した旅のプランの例

さらに，2019年度と2022年度には，滋賀大学で3年に1回担当の回ってくる全学共通教養

科目「地理学からの問い」において，上記の応用編として「地理を活かした近江の旅の創造」のテーマで授業を行った。方法はほぼ同じであるが，「近江の旅」を創造することにして，冒頭では大津と彦根の両キャンパスの周辺について紹介し，その後は通史的に近江・滋賀を取り上げる内容とした。図1左の第2回は大津キャンパスの周辺にある瀬田川洗堰，石山貝塚や石山寺，神社，中世の城跡などを回るものとした。図1右の第6回は逢坂関を経て三井寺，大津宮跡，日吉大社などへ京阪石山坂本線を北上していく，古代の大津を考える内容とした。

ただし，図1に掲載したものは比較的移動がしやすく，しかも目的地同士が近接しているケースであり，提示したものの多くは長距離の移動をせざるを得ないものとなっている。例えば，弥生時代の遺跡を巡るプランでは，栗東駅に近い下鈎遺跡石碑や伊勢遺跡，さらに野洲駅が最寄りの銅鐸博物館などを目的地としたが，栗東～野洲駅間は電車の移動となる。また中世寺院勢力について学ぶプランでは，守山駅が最寄りの金森御坊周辺と多賀大社駅が最寄りの敏満寺跡を目的地としたが，これは駅間の移動（守山駅～彦根駅～多賀大社駅）がかなり長距離となる。京都市内のように目的地が近距離に密集している地域とは異なり，難しい部分が生じる。

本稿では，筆者の研究課題である古典を活かした旅のプランの創造・提案につなげるために，まずは滋賀県を対象とし，その観光の現状も踏まえつつ，どのようなアプローチを考えていけばよいか，検討を行いたい。そのため，滋賀県の観光地について，まず概観したい。

Ⅱ　滋賀県の観光

1　滋賀県の集客上位の観光地

滋賀県では，毎年『滋賀県観光入込客統計調査書』をまとめている。この調査は，「県内の観光地で年間入込客数が 1,000 人以上見込まれる観光地において調査を実施」するといい，令和3年は679地点について計上している[12]。これには，「観光入込客数ベスト30」として上位30か所の観光地と入込客数が掲載されているので，まずこれについて，2012（平成24）年から2021（令和3）年までの10年間分を整理することにした。表1では，2012（平成24）年の上位30か所を1～30に入れ，次の年から新しく出現した観光地を順番に入れていく形で，2021（令和3）年まで計45か所について整理した[13]。また観光地の所在市町，種別，創建・開業年と普通車駐車場の状況，最も多かった年とその観光客数を示した。

表1によると，45か所のうち最も種類の多い観光地は道の駅（14か所）であり，公園（9か所），寺社（7か所）と続く。筆者の研究課題で旅の目的地となり得るのはまず寺社だが，近江神宮と太郎坊宮を除く5か所には可能性があり，太郎坊宮（＝阿賀神社）は神仏分離後の創建であるが，鎮座する太郎坊山中腹の成願寺は延暦年間の創建なので，関わりを持ち得る[14]。なお史跡は2か所あるが，ともに近世のものである。寺社・史跡，さらに博物館を足しても11か所と，寺社・史跡等の歴史遺産に文化施設を加えても全体の4分の1程度である。

他に全体の特徴として，全ての観光地で近隣も含めて普通車の駐車場が利用でき自動車で訪

問することが可能なこと，コロナ禍の2021年に最多観光客数となっている観光地が道の駅か公園であることなどが挙げられる。元々から道の駅や公園などの自動車で訪れやすい場所が上位の観光地であるが，コロナ禍で家族や少人数の友人などとの限られた人数での自動車での移動が中心となると，地場の食材などが豊富に売られている道の駅や人との距離が保ちやすい広い公園などは積極的に観光地として選ばれた可能性が考えられる。

表１　滋賀県の集客上位観光地

位置	観光地	市町	種別	創建・開業	普通車駐車場・台数	最多観光客数（2012～2021）	最多年
1	黒壁ガラス館	長浜市	飲食物販	1989	近隣	2,227,700	2019
2	多賀大社	多賀町	寺社	不詳	あり	1,783,300	2019
3	道の駅 藤樹の里あどがわ	高島市	道の駅	2006	97	890,000	2013
4	彦根城	彦根市	史跡	1606	280	836,300	2017
5	日牟禮八幡宮	近江八幡市	寺社	寛弘年間	あり	736,900	2016
6	比叡山ドライブウェイ	大津市	道路	1958	―	648,300	2012
7	滋賀県希望が丘文化公園	野洲市	公園	1970	あり	843,500	2019
8	八幡堀	近江八幡市	史跡	1585	近隣	620,500	2013
9	道の駅 あいとうマーガレットステーション	東近江市	道の駅	1995	194	782,200	2019
10	比叡山延暦寺	大津市	寺社	785	475	544,000	2012
11	豊公園	長浜市	公園	1909	446	830,800	2014
12	矢橋帰帆島公園	草津市	公園	1986	500	594,800	2014
13	道の駅 みずどりステーション	長浜市	道の駅	2001	103	502,500	2012
14	道の駅 びわ湖大橋米プラザ	大津市	道の駅	1996	136	572,000	2018
15	長濱オルゴール堂（閉業移転）	長浜市	飲食物販	2005	近隣	444,900	2012
16	ファーマーズマーケットおうみんち	守山市	飲食物販	2008	144	443,200	2013
17	マキノ高原・さらさ	高島市	温浴施設	2002	120	450,400	2019
18	道の駅 伊吹の里	米原市	道の駅	2005	30	414,673	2021
19	奥比叡ドライブウェイ	大津市	道路	1966	―	384,600	2017
20	滋賀県立琵琶湖博物館	草津市	博物館	1996	420	506,800	2019
21	道の駅 くつき新本陣・日曜朝市	高島市	道の駅	1987	93	351,000	2012
22	びわ湖大花火大会	大津市	イベント	1984	―	350,000	2019
23	道の駅 塩津海道あぢかまの里	長浜市	道の駅	2010	76	506,600	2016
24	琵琶湖ホテル	大津市	宿泊施設	1998	155	323,100	2012
25	滋賀県立陶芸の森	甲賀市	博物館	1990	250	421,500	2019
26	あがりゃんせ	大津市	温浴施設	2005	300	360,100	2014
27	道の駅 近江母の郷	米原市	道の駅	1997	78	320,700	2013
28	道の駅 竜王かがみの里	竜王町	道の駅	2003	200	741,600	2016
29	びわ湖鮎家の郷（閉業）	野洲市	飲食物販	不明	250	274,200	2012
30	グリーンパーク想い出の森	高島市	公園	1988	あり	268,700	2012
31	アグリパーク竜王	竜王町	道の駅	1996	200	566,000	2016
32	滋賀県立近江富士花緑公園	野洲市	公園	1992	260	331,320	2021
33	滋賀農業公園ブルーメの丘	日野町	公園	1997	2,000	287,400	2013
34	木之本地蔵院	長浜市	寺社	675	20	271,800	2014
35	ラコリーナ近江八幡	近江八幡市	飲食物販	2015	あり	3,226,900	2019
36	近江神宮	大津市	寺社	1940	200	565,000	2016
37	道の駅 妹子の郷	大津市	道の駅	2015	87	837,000	2019
38	びわ湖パレイ	大津市	公園	1965	1700	651,800	2018
39	道の駅 奥永源寺渓流の里	東近江市	道の駅	2015	36	344,506	2021
40	田村神社	甲賀市	寺社	822	1,000	389,500	2019
41	草津川跡地公園（区間2・区間5）	草津市	公園	2017	208	774,500	2019
42	道の駅　せせらぎの里こうら	甲良町	道の駅	2013	59	432,782	2021
43	太郎坊宮	東近江市	寺社	1876	50	499,300	2019
44	道の駅 アグリの郷栗東	栗東市	道の駅	2000	41	359,118	2021
45	奥びわスポーツの森	長浜市	公園	1987	180	301,842	2021

注：「位置」は図２・３中の地点を示す。
資料：滋賀県商工観光労働部観光振興局『滋賀県観光入込客統計調査書』（平成24年～令和３年）、施設等Webサイト（文献欄に記載）、『滋賀県の地名』（平凡社）

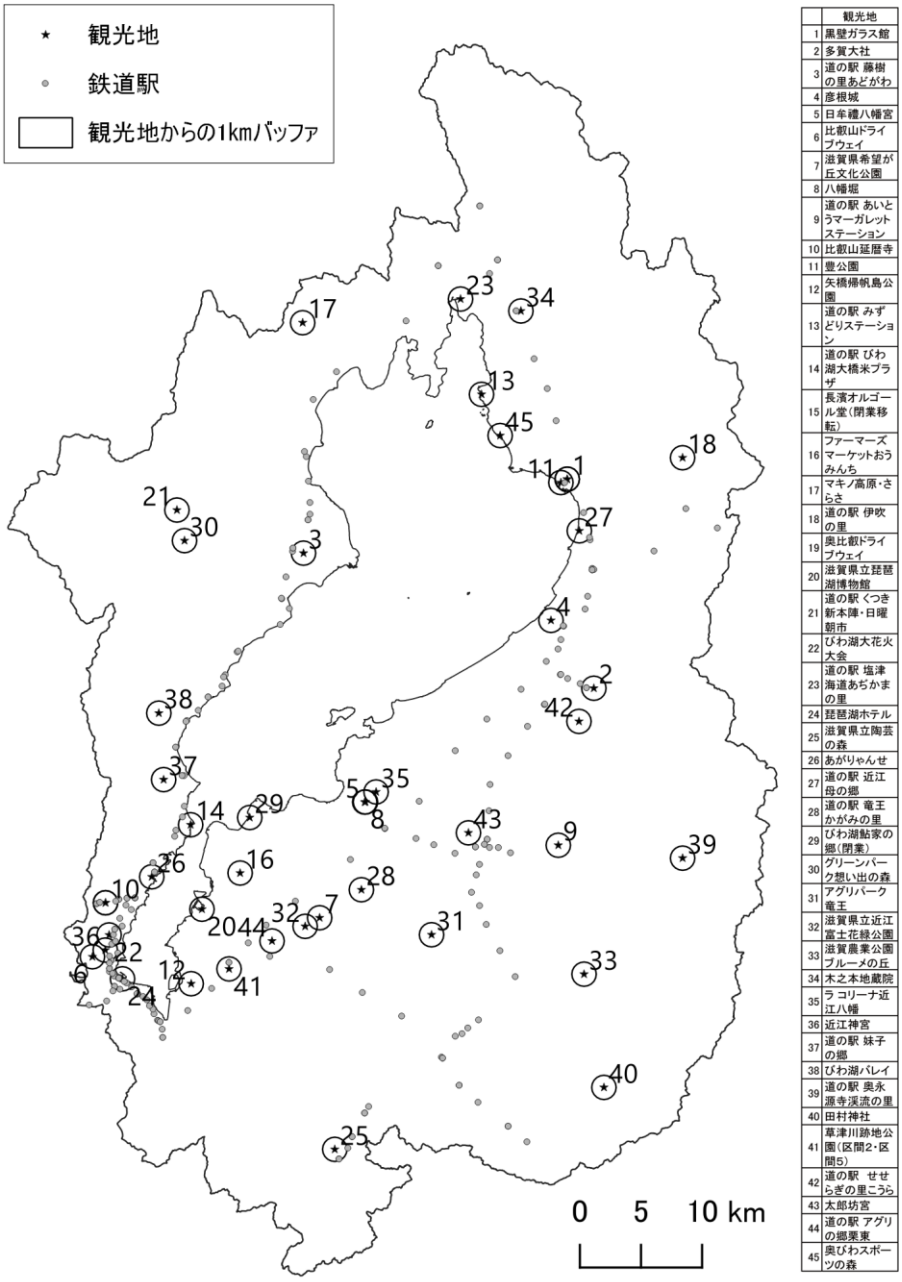
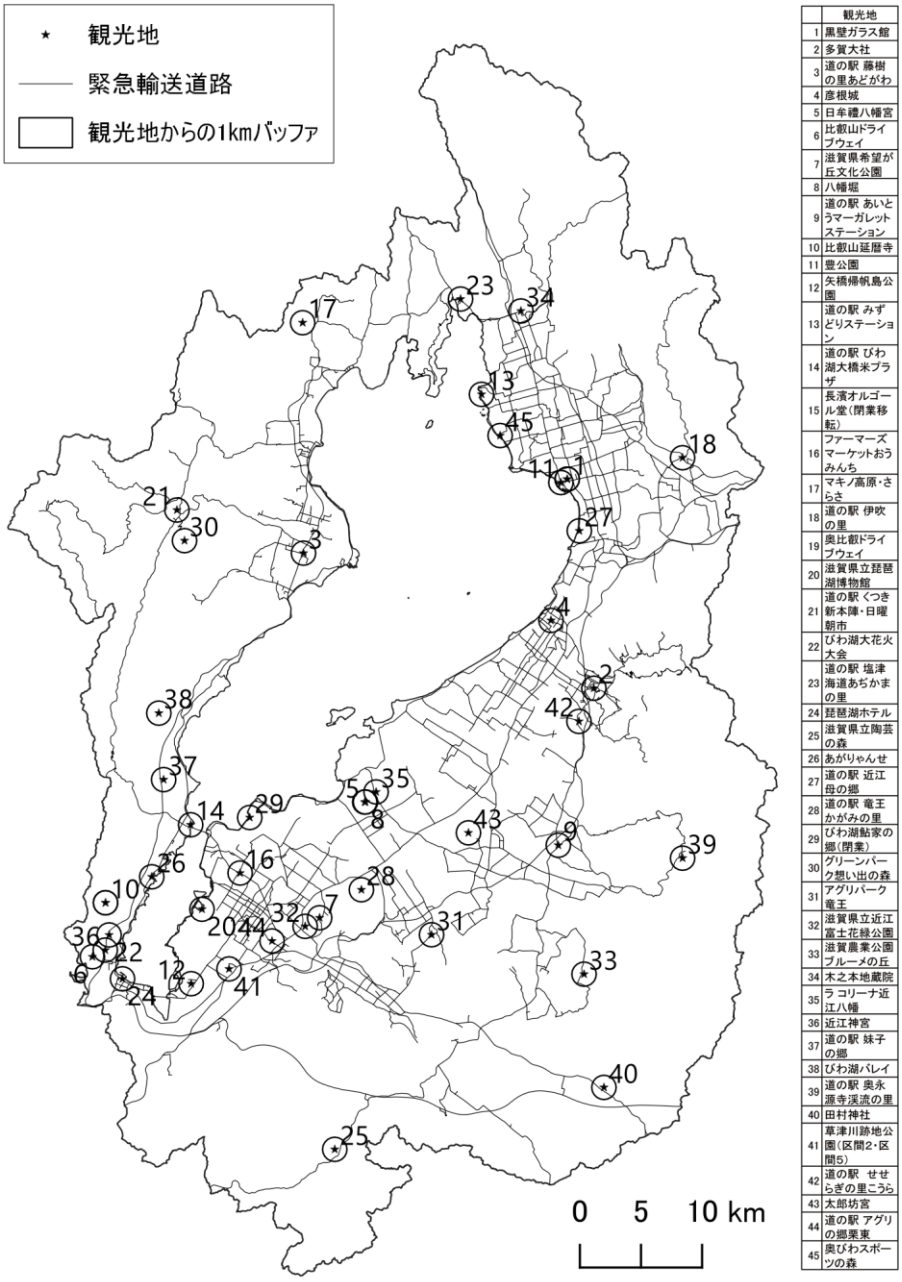


図２　滋賀県の集客上位の観光地と駅の位置

注：1 と 15，10 と 19 は同じ住所のため，15 と 19 が図に反映されていない。

資料：滋賀県商工観光労働部観光振興局『滋賀県観光入込客統計調査書』（平成 24 年～令和 3 年），国土数値情報（令和 3 年行政区域データ・令和 3 年鉄道時系列データ）



	観光地
1	黒壁ガラス館
2	多賀大社
3	道の駅 藤樹の里あどがわ
4	彦根城
5	日牟禮八幡宮
6	比叡山ドライブウェイ
7	滋賀県希望が丘文化公園
8	八幡堀
9	道の駅 あいとうマーガレットステーション
10	比叡山延暦寺
11	豊公園
12	矢橋帰帆島公園
13	道の駅 みずどりステーション
14	道の駅 びわ湖大橋米プラザ
15	長濱オルゴール堂（閉業移転）
16	ファーマーズマーケットおうみんち
17	マキノ高原・さらさ
18	道の駅 伊吹の里
19	奥比叡ドライブウェイ
20	滋賀県立琵琶湖博物館
21	道の駅 くつき新本陣・日曜朝市
22	びわ湖大花火大会
23	道の駅 塩津海道あぢかまの里
24	琵琶湖ホテル
25	滋賀県立陶芸の森
26	あがりゃんせ
27	道の駅 近江母の郷
28	道の駅 竜王かがみの里
29	びわ湖鮎家の郷（閉業）
30	グリーンパーク思い出の森
31	アグリパーク竜王
32	滋賀県立近江富士花緑公園
33	滋賀農業公園ブルーメの丘
34	木之本地蔵院
35	ラコリーナ近江八幡
36	近江神宮
37	道の駅 妹子の郷
38	びわ湖バレイ
39	道の駅 奥永源寺渓流の里
40	田村神社
41	草津川跡地公園（区間2・区間5）
42	道の駅　せせらぎの里こうら
43	太郎坊宮
44	道の駅 アグリの郷栗東
45	奥びわスポーツの森

図３　滋賀県の集客上位の観光地と緊急輸送道路の位置

注：1 と 15，10 と 19 は同じ住所のため，15 と 19 が図に反映されていない。

資料：滋賀県商工観光労働部観光振興局『滋賀県観光入込客統計調査書』（平成 24 年～令和３年），国土数値情報（令和３年行政区域データ・令和２年緊急輸送道路データ）

2　集客上位の観光地と交通

さて，上位の観光地においては全ての観光地で駐車場が利用できる環境にあったが，鉄道を利用していくことはできるのだろうか。先述した永瀬（2019）では 1930 年代の大津について鉄道駅と街路からの距離について分析されている[15]が，範囲を滋賀県全体に広げて現在の様子を概観したい。そこで，QGIS3.28 に表 1 に示した観光地をプロットし，国土数値情報から行政区域・鉄道駅・道路の情報などを得て，図 2・図 3 を作成した。

図 2 は鉄道駅と観光地からの 1km のバッファを描き，観光地から 1km 圏内に鉄道駅があるかどうかを示したものである。これによると，45 か所のうち 17 か所にとどまっている[16]。鉄道で向かうことが難しいと思われる観光地が半数以上を占めている。

一方図 3 は，観光地から 1km 圏内に道路が含まれるかどうかを示したものである。道路は主要道路の多くが含まれる「緊急輸送道路」のデータを用いた。これによると，1km 圏内に主要道路が入らないのは 10・19・38 の 3 か所だけである。このうち 10 の比叡山延暦寺には 19 の奥比叡ドライブウェイを通って車で向かうことができる。38 のびわ湖バレイについては駐車場からロープウェイで上がって向かうため，駐車場までは車で行くことが想定されている。つまり，滋賀県の上位観光地の多くは車で訪れることが想定されていることが明らかであり，公共交通機関である鉄道を活用して訪問することはあまり想定されていないと言える[17]。

以上のように，滋賀県の入込客数上位の観光地は自動車で行くことを前提としているほか，道の駅や公園などの目的地が多く歴史遺産や文化施設が少なかった。しかし，公共交通機関で行くことができることが，他の都道府県あるいは海外からの観光客にとっては便利である。また現在は上位には出てきていない歴史遺産について加えることができれば，より充実した魅力ある観光につなげられる可能性がある。

そこで，公共交通機関で行くことができ，現在は上位観光地のリストに載っていない歴史遺産として，冒頭に取り上げた石山寺を想定したい[18]。京阪石山寺駅から 1km 程度で歩いていくことができるため鉄道駅を活用できる[19]。また古代から続く寺院であり，多くの人々に知られていることも，取り上げやすい理由となる。さらに大河ドラマ放映が近いことも追い風になると思われるため，石山寺について，古典を活かした旅の目的地にできないか，貴族・公家の日記と物語の記述を取り上げて検討する。

Ⅲ　物語の舞台としての石山寺

1　石山寺と文学研究

石山寺は先述したように清水寺や長谷寺と並ぶ観音霊場であり，『梁塵秘抄』にも「観音験を見する寺　清水石山長谷の御山　粉河近江なる彦根山　間近く見ゆるは六角堂」（313），「験仏の尊きは　東の立山美濃なる谷汲の彦根寺　志賀長谷石山清水　都に間近き六角堂」（428）と表現されている。このことについても触れている原田（1993）[20]が石山詣について，観音信仰

の霊場である石山寺においては懸崖造りの銅や舞台の堂下にある深い谷が見えることが，社寺参詣自体の「死と再生」の観念をより顕現化するものであり，心身をよみがえらせることにつながったのだと指摘した。また，紫式部が物語を執筆するために石山に参籠し，『源氏物語』の筆を起こしたという伝説について，明証はないが，平安朝における石山信仰のたかまりと『源氏物語』の執筆を並の人間技ではないとする中世の源氏物語崇拝とが結び合わされて伝説が生み出されたのだろうとしている。

また西木（2005）は，『大和物語』172 段に登場する「亭子の帝」と記された宇多法皇の石山詣について考察し，『躬恒集』の記述や先行研究の検討から 916（延喜 16）年 9 月の出来事と確認しつつ，その石山詣を度々迎えた近江守平中興の「民疲れ，国ほろびぬべし」との悩みを聞いた院が他国に準備をさせたことを受け，中興が大友黒主を打出の浜に据え置き，黒主が歌を詠んでひき止め，それを称賛して人々に物を賜って都へ帰ったことなどから，『大和物語』で語られた宇多法皇に人としての広さ・暖かさも感じられる，としている[21]。

さらに，徳竹（2003）は，石山寺の天平宝字期の造営が保良宮の造営と密接に関係していると推定され，保良宮廃止と同時に石山寺も衰退へ向かったものの，東大寺東南院を設立した聖宝の法流を継承した真言僧の活動により，真言宗の淳佑が入寺した以降は真言宗寺院となって中興・再整備される中で，空海の真言院設立以降真言密教化が進行し，聖宝の法流とも密接にかかわるようになった東大寺とも関係が再認識されていったのではないかとしており，「石山寺開基伝承」についてもその過程で生成されていった可能性を指摘している[22]。

石山寺が京都の人々の信仰を集め，天皇家やその周辺の人々などからも多くの来訪を受けたことについて，文学作品の表現の中にも表れていることが示されている。

2　石山寺と物語の舞台

そこで，石山寺を舞台とする「物語」について検討したい。石山を取り上げた物語はいくつかある。西木（2005）も取り上げていた『大和物語』172 段は主舞台としては打出の浜であるが，

> 亭子の帝，石山につねにまうでたまひけり。国の司，「民疲れ，国ほろびぬべし」となむわぶると聞しめして，こと国々の御庄などにおほせごとたまひければ，もてはこびて，御まうけをつかうまつりて，まうでたまひけり。（以下略）

と冒頭にある。宇多法皇の来訪の度に参詣のための準備をすることになる近江では，相当な出費や労役となっているさまが描かれているが，これに悩んでいると耳にした宇多法皇は他国の荘園に準備を命じている。もちろん配慮の賜物ではあるが，裏を返せば他国に準備を命じてでも足を運び続けたい地，という見方もできる。

『落窪物語』では序盤に石山が登場する。中納言家の，天皇家出身の女性の子で母のいない姫

君が，中納言の北の方によって床の窪んだ二間の部屋に住まわされ，落窪の君と呼ばれて縫物仕事をさせられていたが，彼女の侍女あこぎの夫の母親が乳母をしていた少将が興味を持って何とか会いたいと考えていた折，中納言一家が石山詣に出かけることとなるが，落窪の君は留守居となってしまう場面である。

…この殿，古き御願はたしに，石山に詣でたまふに，御供にしたひきこゆるままに，もておはすれば，嫗さへとどまらむことを<恥>と思ひて詣づるに，落窪の君，かぞへのうちにだに入らねば，弁の御方，「落窪の君，率ておはせ，一人とまりたまはむがいとほしきこと」と申したまへば，「さて，それがいつかありきしたる。旅にては，縫物やあらむとする。なほ，ありかせそめじ。うちはめて置きたるぞよき」とて，思ひかけでやみたまひぬ。…

中納言の御礼参りに，老女までもが「残るのは恥だ」として参詣しようとするのに，落窪の君は「弁の御方」がとりなしてくれたにもかかわらず，「旅行先では縫物はない」などと言って人数に加えてもらえなかった，という話である。この後，侍女あこぎが機転を利かせて「にはかにけがれはべりぬ」と月経を理由に居残り，一家の留守の間に少将と出会うことになる。その後，3 日目の夜を過ごして一緒にいるところに一家が帰ってくる，という場面に続いていく。

石山寺そのものが描写されるわけではないが，石山詣が一家総出で行われるような出来事であり，それに連れていってもらえない，ということが大変辛い話として受け取られるものだと言える。一方で，その石山詣が契機となってのちの縁につながるという意味では，留守をすることになった落窪の君にも間接的に好影響を与えることとなった出来事である。

なお，「けがれ」を理由に参詣を辞退する「清浄な空間」という点も指摘しておく。『小右記』に穢れを理由に月の 18 日に参詣している清水寺に「不参」となる記事がある[23]が，同じように観音霊場である石山寺についてもそういった考えがあったことが窺える。

その中で，主舞台の 1 つとして展開する物語として，『夜寝覚物語（夜の寝覚）』が挙げられる。太政大臣が男手一つで育てた 4 人の子のうち，妹の姫君は父に習った箏の琴を優れた音色で奏で，その音色を聞いた天人から夢の中で琵琶を習う。翌年も夢に現れた天人が心を乱すであろう宿世を告げたが，その後姉の大君と婚約した中納言と，互いを誤認したまま出会い，妹の姫君は懐妊する。その出産のために石山参籠を計画し，ここで産まれた姫を大納言（中納言から出世）が引き取って育てることになる（巻一）。後年，妹の姫君は関白（大納言がその後出世）の北の方となって石山で産んだ姫とも対面し，その姫はのちに入内することになる（巻五）。

以下は，妹の姫君が，お腹が大きくなってきて苦しむようになり，兄である宰相中将が，自分の乳母の兄が石山寺の別当であることから石山参籠を計画し，妹の姫君を石山に連れ出すために，父の太政大臣に話をする場面である。

「この御心地，いかにも叶ふべくも見え給はねば，占はせて侍れば，『霊験あらたにましまさん堂に籠り給ひては，いとよし』となん申す。御祈りはしるしありとも見え侍らぬに，石山に籠め参らせてこころみ侍らばや。この寺は，かつ知ろし召したるやうに，聖武天皇の，東大寺の大仏の御料に黄金をいかがすべきと思し召しけるに，天平十九年の秋の頃，御夢想に，「近江の国栗本の郡，湖の岸のほとりに勝地あり。件の所に伽藍を建てて如意輪の法を行はば，黄金出で来たるべし」と御覧じて，覚めて後，件の地を尋ね出だし，堂を造りて，如意輪観音，執金剛神を造り据ゑ奉りて，如意輪の法を行はれしに，その年の師走に，下野の国より，黄金出で来たるよしを奏聞す。これ程の難きことだにも叶ひ侍れば，しばし籠め奉りてこころみ給へかし」と申し給へば，…

霊験あらたかなお堂に籠ることが姫君の体調によく，それは聖武天皇が東大寺大仏の黄金の用意に困っていた際に，伽藍を建立して如意輪観音に祈れば黄金が出てくるという夢想に従って堂を建立して如意輪の法を行ったところ黄金が産出したという難題も叶えるという，石山寺に籠るのがよいという提案をしている。この内容は，徳竹（2003）でも取り上げられた「石山寺開基伝承」で構成されているものであり，これと同じ内容は『今昔物語集』にも取り上げられている[24]。困難な願いをも叶えるのに最適の寺として選択されている。

その後巻五で二人は再会を果たし，姫君は再び懐妊しともに石山参籠に向かうが，今度は「上達部，殿上人などあまた御供」をし，「めづらかにありがたき見物」という行列で向かっており，一緒に向かう人々も以前の人目を忍んで向かったことを思い出すという内容が展開される。

京都から近く，多くの人々が参詣する寺院でありつつ，京都と一定の距離をもち密かに出産を行える場所ともなっており，この位置がうまく反映された物語の展開と考えることができる。

以上，物語の検討から，京都の人々が何回も訪れたいと考え，困難な願いでも叶えてくれ，京都の人々との結びつきの非常に強い寺院であるとイメージされてきたことが理解できる。

Ⅳ　貴族・公家の日記にみる石山寺

前章では，石山寺を舞台とした物語について検討し京都の人々のイメージについて整理したが，ここでは実際の訪問がどのようなものであったか，貴族・公家の日記を見ていく。

まず，貴族・公家の日記において，石山への訪問記事がどのくらいあるのか，日記名と石山寺への参詣日・帰京日，人物を表 2 に整理した。日記は平安時代から室町時代のものを参照した。表 2 の参詣日と帰京日が太字になっているのは，宿泊を伴った参詣である[25]。62 件中 22 件で，35％程度である。参考までに現代の状況を見てみると，滋賀県全体ではあるが，令和元年度には観光入込客数が 54,036,100 人，宿泊客数が 4,081,500 人で 7.5％程に過ぎない[26]。現代とは時間距離が異なるため一概には言えないが，宿泊を伴う古代・中世の参詣は比較的多い方であると見ることはできそうである。日帰り可能な寺院ではあるが，参籠するケースもよく行われ

ていた。

表２　貴族・公家の日記における石山への訪問記事

日記	参詣	帰京	人物
小右記	永延1・1・27	永延1・1・28暁	藤原実資
小右記	長徳1・2・28	長徳1・2・28	東三条院・藤原道長など
権記	**長保2・9・8**	**長保2・9・17**	東三条院
権記	長保3・10・27黄昏	長保3・10・27乗燭後	東三条院・大臣・行成など
権記	**寛弘1・8・25衝昏**	**寛弘1・8・28臨昏**	藤原行成・女房等
権記	**寛弘2・5・4**	**寛弘2・5・5**	藤原行成
権記	寛弘2・8・27	寛弘2・8・28早朝	藤原行成
小右記	寛弘2・10・25	寛弘2・10・25子剋	藤原資平
御堂関白記・権記	**寛弘2・10・25**	**寛弘2・10・27**	敦康親王・道長・行成など
権記	**寛弘2・11・2夜**	**寛弘2・11・3午**	藤原行成
御堂関白記	寛弘2・11・3暁	寛弘2・11・3午	藤原道長
権記	寛弘3・1・8	寛弘3・1・8	藤原行成
権記	**寛弘3・8・27**	**寛弘3・8・29**	藤原行成
権記	**寛弘7・3・11**	**寛弘7・3・14**	藤原行成
権記	**寛弘8・5・21申**	**寛弘8・5・22午**	藤原行成
御堂関白記	長和4・1・13	不明	藤原頼通・教通
小右記	不明	寛仁1・10・29	藤原道綱
小右記	**寛仁3・10・21**	**寛仁3・11・2**	小一条院・御息所
小右記・左経記	治安1・8・1	治安1・8・1か	藤原頼通
台記	天養1・4・29深更	天養1・4・30鳴鐘	藤原頼長
台記	久安3・7・20子刻	久安3・7・20即帰	藤原頼長
台記	久安4・6・8戌	久安4・6・9卯	藤原頼長
台記別記	久安5・7・23	久安5・7・23	藤原頼長
台記別記	久安5・10・25	不明	三位〈女子〉
兵範記	嘉応2・3・19	嘉応2・3・19か	平信範
愚昧記	治承1・1・29	治承1・1・29酉	女御殿（琮子）
実躬卿記	嘉元2・10・22	嘉元2・10・22夜	禅閤・正親町三条実躬など
後深心院関白記	貞治1・1・4	貞治1・1・5（山門へ）	後光厳天皇
看聞日記	応永25・11・8	不明	足利義持
看聞日記	**応永26・3・18**	**応永26・3・22**	女中等
薩戒記	**応永32・5・17**	**応永32・5・18申**	中山定親など
看聞日記	永享3・3・29	不明	南御方・御乳人など
看聞日記	**永享3・10・23**	**永享3・10・24酉**	伏見宮貞成親王など
看聞日記	**永享4・8・17**	**永享4・8・25**	御乳人
看聞日記	永享4・8・24	永享4・8・25	重賢
看聞日記	**永享4・10・15**	**永享4・10・16夕**	近衛・芝殿・承泉など
看聞日記	**永享4・10・17**	**永享4・10・18**	長資朝臣・重賢など
看聞日記	永享5・2・22	永享5・2・22晩景	南御方、御乳人など
薩戒記	**永享5・5・15**	**永享5・5・16**	中山定親
看聞日記	**永享5・6・11**	**永享5・6・19**	清賢
看聞日記	**永享5・6・17**	**永享5・6・18**	隆富朝臣・重賢・御乳人など
看聞日記	永享5・6・26か	永享5・6・26	慈雲院
看聞日記	永享6・2・18	永享6・2・18乗燭	南御方・御乳人・源宰相
看聞日記	永享6・3・18	永享6・3・18	南御方
看聞日記	永享6・4・11	永享6・4・11	伏見宮貞成親王など
看聞日記	永享6・5・18	永享6・5・19か	近衛・芝殿・行資
看聞日記	永享6・10・30	永享6・11・1か	行豊朝臣・行資・基祐など
看聞日記	永享7・3・8	永享7・3・8	春日・源宰相・行資
看聞日記	**永享7・5・10**	**永享7・5・13**	近衛・芝殿
看聞日記	永享7・5・13	永享7・5・13	重賢・行資・基祐・御乳人
看聞日記	永享7・6・5	永享7・6・5晩	南御方、御乳人・基祐など
看聞日記	永享7・10・10	永享7・10・10	伏見宮貞成親王など
看聞日記	永享7・10・29	永享7・10・29か	足利義教
看聞日記	**永享8・3・18**	**永享8・3・19**	御乳人・重賢・行資・重仲
看聞日記	永享9・3・2	永享9・3・2晩景	今御所など
看聞日記	永享9・12・7	不明	御乳人
看聞日記	永享10・3・20	不明	新中納言、三条室相
看聞日記	**永享10・10・27**	**永享10・10・29**	春日・御霊殿・庭田女性など
看聞日記	**嘉吉3・2・9**	**嘉吉3・2・16**	御比丘尼・右衛門督・御乳人など
看聞日記	嘉吉3・2・14	嘉吉3・2・14	一条・新大納言・重賢朝臣
建内記	文安4・3・6	不明	冷泉局
建内記	不明	文安4・11・16	冷泉局

詳細には，摂関期では，これまで日記を取り上げてきたあらゆる場面で記述の多い『小右記』にはあまり石山訪問の記録が目立たなくなっているが，同時期の『権記』によく記述されるうえに，記主の藤原行成の宿泊を伴う参詣のケースが目立っている。

一方，院政期には記述があまり多くない。これは推論ではあるが，摂関期には非常に多かった石山参詣の記録が減少しているのは，熊野や厳島，あるいは院政期に参詣ブームの起こった彦根寺など，参詣先が広がったことが影響している可能性がありそうである。そのような中で少し気になるのが，『台記』である。記主の藤原頼長はほぼ日帰りであるとはいえ，この時期の人物としてはよく訪れていると言えよう。彼は摂関家の人物として，前時代の東三条院や藤原道長・頼通らが参詣した石山に対してもこだわりを持っていた可能性を指摘しておきたい。

鎌倉時代には少なく，増加するのは室町時代になってからであるが，目立っているのは『看聞日記』である。記主の伏見宮貞成親王とその周辺の人物が長い滞在も含めてよく参詣している。そのうち，以下の時系列が分かりやすい記述を取り上げてみたい。

> 朝晴る，昼より雨降る，暮に至り雨脚止まる，石山に参詣す，若宮・南御方・春日・御乳人参る，重賢・行資・承泉，地下浄喜・快賢・義村・新左衛門・助六等を召し具す，申刻御堂に参着す，仏前にて暫く念誦す，上分・御剣等之を献ず，大師御影堂に於て駄餉を食す，雨下り既に晩に及ぶの間急ぎ下向す，<于時酉刻>，関山の辺り昏に及ぶ，醍醐より松明を取る，亥刻伏見<ニ>落着す，（以下略）
>
> （『看聞日記』1435（永享 7）年 10 月 10 日条）

御堂到着は申刻＝午後 4 時頃である。お参りの後，弁当を食べ，酉刻＝午後 6 時頃に帰路についた。逢坂関の辺りで暗くなり，醍醐で松明を手に取り，亥刻＝午後 10 時頃に伏見に到着している。出発の時間は書かれていないが，同じ時間なら午刻となるので，それ以前の出発が想定される。もし 4 時間かけて石山寺に着き，お参りと食事で 2 時間，4 時間かけて伏見に帰る，ということなら（文字通りの）半日コースということになる。伏見からで参詣しやすい環境にあったことも，周辺の人々の盛んな参詣を後押しした可能性がある。

なお，摂関期の事例には以下のものがある。

> 石山寺に参る，巳剋出京す，山科に至る比，風雨暴列す，しばらくして止む，申剋許参着す
>
> （『権記』1011（寛弘 8）年 5 月 21 日条）
>
> 卯時寺を出す，午剋京に来る（以下略）（『権記』1011（寛弘 8）年 5 月 22 日条）

行きは巳刻＝午前 10 時に出発して，山科付近で暴風雨に遭い，申剋＝午後 4 時頃に到着している。帰りは卯時＝午前 6 時に出発して，午剋＝正午頃に到着している。行きは 6 時間程度か

かっており，雨に遭ったことも考慮する必要があるが，全体的に上りが多いために時間がかかる可能性はある。ただ，いずれにせよ宿泊と日帰りを上手に選ぶことのできる目的地であったと考えられる。

また，以下のような記述も見られる。

今日江州成就寺より石山に遷幸す，今夜御逗留さる，余密々参会す，御所参るに及ばず，

（『後深心院関白記』1362（貞治元）年１月４日）

今朝石山より山門に臨幸す，余直ちに入華す，山門に参らず，

（『後深心院関白記』1362（貞治元）年１月５日）

後光厳天皇は蒲生郡の成就寺[27]から石山に行幸し，その日は石山に宿泊，翌朝そこから比叡山に向かったということである。石山と京の往復だけでなく，他の寺院と連続して訪問するケースもある。

以上，時期により参詣に温度差があるが，摂関期や室町時代のような人々の参詣の多い時期には，日帰りと宿泊の都合のよい方法を選択しながら，多くの参詣が行われたと考えられる。

Ⅴ　今後の方向性

以上の検討から，以下の点が整理できるかと思われる。

① 滋賀県の集客上位の観光地は自動車で行くことが前提となった道の駅や公園などの観光地が多く，実際に道路とは近接しているが，鉄道駅と近接する観光地は４割に満たない。また寺社などの歴史遺産も４分の１程度である。したがって，歴史遺産を目的地とした旅には検討の余地がある。例えば，石山寺は交通の便のよい歴史遺産であり，候補の１つとなる。

② 石山寺を舞台とする物語によれば，京都の人々が何回も訪れたいと考え，困難な願いでも叶えてくれ，京都の人々との結びつきの非常に強い寺院であるとイメージされてきた。そのことは，貴族・公家の日記からも垣間見ることができ，平安時代や室町時代のような参詣の記述の多い時代には，日帰り・宿泊を都合に応じて選択して盛んに参詣を行っていた。また他の寺院と合わせたコースで参詣されることもあった。

以上のことから考えていくと，旅のプランを作成する際に，京都からの日帰りのプランで，逢坂関周辺などの道すがらの歴史遺産も加える，あるいは宿泊を伴うプランとして比叡山などとも結び付けた内容とするなど，石山寺の場合は，京都とのつながりを重視した旅のプランを中心に構成することが歴史的な経緯から考えても妥当であると思われるが，引き続きその他近隣の歴史遺産における状況も調査したうえで，検討を重ねたい。

（滋賀大学教育学部）

【付記】本稿の作成に当たっては，2021 年度科学研究費・学術研究助成基金助成金「古代・中世の古典の舞台に関する地理学的分析と成果を活用した旅のプランの創造・提案」（基盤研究（C）：21K12451，研究代表者：安藤哲郎）の一部を活用した。

【注】

1)『京都新聞滋賀版』2022 年 5 月 12 日，25 面「24 年大河は紫式部　主演に吉高由里子さん」。NHK が 5 月 11 日，2024 年放送の大河ドラマが脚本・大石静氏による「光る君へ」に決まったことを発表した。

2) 前掲 1)「ゆかりの湖国 魅力発信へ　滋賀知事」によると，三日月知事は「石山寺などゆかりのある滋賀がどういった形で取り上げられるか楽しみにしている。これをきっかけに，県の多様な魅力を広く全国に伝えられるよう発信していく」とコメントしたという。

3) 石山寺「大津市大河ドラマ『光る君へ』活用推進協議会設立」，2022 年 10 月 21 日（https://www.ishiyamadera.or.jp/info/9642，2023 年 1 月 8 日確認）。

4) 望月良親「地域から考える大河ドラマと時代考証―井伊直弼と彦根―」（大石学・時代考証学会編『地域と語る大河ドラマ・時代劇―歴史都市彦根からの発信―』，サンライズ出版，2012），25 頁。

5) 太田浩司「大河ドラマは町になにを遺したか」（大石学・時代考証学会編『地域と語る大河ドラマ・時代劇―歴史都市彦根からの発信―』，サンライズ出版，2012），43 頁には，長浜市が 3 回の大河ドラマ博覧会を開催していることが指摘されている。また，大石学「序　時代劇・大河ドラマと歴史的景観―ロケ地と文化遺産―」（同書），7 頁には，時代劇や大河ドラマのロケ地に選ばれるポピュラーな場所として，滋賀県の自治体の中から彦根市・大津市・近江八幡市が述べられているが，他は長崎市・京都市・神戸市・姫路市・岡山市・倉敷市が挙げられており，滋賀県の自治体が目立っている。

6) 原田敦子「死と再生の谷―王朝女流の石山詣―」日本文学 42-4，1993，1～12 頁や，西木忠一「ささら浪まもなく岸を：『大和物語』第一七二段」樟蔭国文学 42，2005，1～9 頁に指摘されている。

7) 青柳周一「近世旅行史上における近江国―地域間関係史の視点から―」交通史研究 61，2006，51～69 頁。

8) 永瀬節治「1930 年代の「遊覧都市」大津における観光資源の分布と都市計画の呼応関係－『観光の近江』に掲載された名所との関わりに着目して」公益社団法人日本都市計画学会　都市計画論文集 54-2，2019，114～123 頁。

9) 滋賀県商工観光労働部観光振興局『令和元年　滋賀県観光入込客統計調査書』2 頁。

10) 京都市産業観光局『京都観光総合調査（令和元年（2019 年）1 月～12 月）』，11 頁。

11) 安藤哲郎「教養教育における地域資源を考える旅の創造 ―京都大学 COC 科目での取組―」歴史地理学 59-1，2017，19～32 頁。また，安藤哲郎「京都大学 COC 科目『地理と古典を活かした京都の旅の創造,提案 A／B』授業実施報告書『旅のプラン集―京都の歴史地理的な理解が可能なフィールドワークを目指して―』」京都大学学際融合教育研究推進センター（全 54 頁），2018 では，授業で扱った旅のプランを掲載し，2019 年度には教科書としても活用した。

12) 滋賀県商工観光労働部観光振興局『令和 3 年　滋賀県観光入込客統計調査書』1 頁。

13) そのため，2021 年時点では最も観光客の多い 2015 年開業の「ラ コリーナ近江八幡」が 35 番目に登場するなど，最新の観光客数を反映した並びにはなっていない。

14) 柴田實監修・木村至宏ほか編『滋賀県の地名』（日本歴史地名大系 25），平凡社，2001（オンデマンド版，原版は 1996，初版第 3 刷），701 頁。

15) 前掲 8) 120～122 頁。

16) 位置番号で記すと，1・2・3・4・10・11・14・15・19・22・24・25・26・27・34・36・41 の 17 か

所が 1km 圏内に駅を含む。全体の 4 割弱である。

17）途中の道にも店舗や住宅があり，景観を楽しむこともできる。なお，今回はバス停との関係については触れなかった。バス停があったとしても 1 日に数本というレベルの本数の少ない箇所は滋賀県内の観光地を訪れた際にいくつか目にしており，この部分を考慮する必要があり，さらなる検討を要する。

18）前掲 12）14 頁には「公開了承施設についてのみ掲載」とあり，石山寺が公開を了解しなかったために掲載されなかったという可能性もある。ただし，滋賀県『令和 3 年度滋賀県観光統計調査報告書』（令和 4 年 3 月発行）によれば，滋賀県全域の 30 地点で観光客の動向に関する聞き取り調査が行われており，石山寺がその調査地点となっていること，また冒頭の大河ドラマ活用推進協議会への関与などを考えても，公開の了解をしないことはやや考えにくいと思われる。

19）実際には JR 石山駅から京阪バスで「石山寺山門前」までバスを乗る方法が便利で，1 時間に 7 本程度は走っているため（京阪バス，2022 年 8 月ダイヤ改正分），それも合わせると，公共交通機関で足を運ぶには十分な観光地である。

20）前掲 6）原田（1993）。

21）前掲 6）西木（2005）。

22）徳竹由明「石山寺開基伝承の形成」日本文学 52-3，2003，82～89 頁。

23）藤原実資『小右記』982（天元 5）年 1 月 18 日条に「依穢不参清水寺」，同年 2 月 18 日条に「世間不浄，仍不参清水寺」とする一方，同年 3 月 18 日条に「未時許沐浴，参清水寺」とあり，習慣でありつつも穢れの場合には参詣せず，参詣の際には沐浴を行うことが記されている。

24）『今昔物語集』巻十一「聖武天皇始造東大寺語　第十三」。

25）なお，翌日に帰ったケースのうち，明らかに時間が短いことが分かるものは除いた。

26）前掲 9）2 頁。

27）前掲 14）536 頁によれば，当初成就寺としたが，一条天皇の時代に石塔が出土し，現寺名の石塔寺に改めたという。

【日記・古典・資料一覧】

藤原実資『小右記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，1959～1986
藤原道長『御堂関白記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所・財団法人陽明文庫編，岩波書店，1952～1954
藤原行成『権記』（史料大成）臨川書店，1992（第 6 刷）
源経頼『左経記』（史料大成）臨川書店，1993（第 6 刷）
藤原頼長『台記』（史料大成）臨川書店，1992（第 6 刷）
平信範『兵範記』（史料大成）臨川書店，1992（第 6 刷）
藤原実房『愚昧記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，2010，2013
藤原（正親町三条）実躬『実躬卿記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，1991～2020
近衛道嗣『後深心院関白記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，1999～2015
伏見宮貞成親王『看聞日記』（図書寮叢刊）宮内庁書陵部編，明治書院，2002～2014
『薩戒記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，2003
『建内記』（大日本古記録）東京大学史料編纂所編，岩波書店，1963，1972，1978，1986
『大和物語』（新編日本古典文学全集 12）高橋正治校注・訳，小学館，1994
『落窪物語』（新編日本古典文学全集 17）三谷栄一・三谷邦明校注・訳，小学館，2017（第 4 刷）
『夜寝覚物語』（中世王朝物語全集 19），鈴木一雄・伊藤博・石埜敬子校訂訳，笠間書院，2009
『梁塵秘抄』（新編日本古典文学全集 42）新間進一・外村南都子校注・訳，小学館，2000

滋賀県商工観光労働部観光振興局『滋賀県観光入込客統計調査書』（平成 24 年～令和 3 年）（https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/kanko/317747.html，2023 年 1 月 8 日確認）
国土数値情報ダウンロードサービス（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/）

【文献】

青柳周一 2006．近世旅行史上における近江国―地域間関係史の視点から―．交通史研究 61，51-69.
安藤哲郎 2007．教養教育における地域資源を考える旅の創造―京都大学 COC 科目での取組―．歴史地理学 59(1)，19-32.
太田浩司 2012．大河ドラマは町になにを遺したか．大石学・時代考証学会編『地域と語る大河ドラマ・時代劇―歴史都市彦根からの発信―』サンライズ出版，43-50.
柴田實監修・木村至宏ほか編 2001．『滋賀県の地名』（日本歴史地名大系 25），平凡社．（オンデマンド版，原版は 1996，初版第 3 刷）
徳竹由明 2003．石山寺開基伝承の形成．日本文学 52(3)，82-89.
永瀬節治 2019．1930 年代の「遊覧都市」大津における観光資源の分布と都市計画の呼応関係―『観光の近江』に掲載された名所との関わりに着目して―．公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 54(2)，114-123.
西木忠一 2005．ささら浪まもなく岸を：『大和物語』第一七二段．樟蔭国文学 42，1-9.
原田敦子 1993．死と再生の谷―王朝女流の石山詣―．日本文学 42(4)，1-12.
望月良親 2012．地域から考える大河ドラマと時代考証―井伊直弼と彦根―．大石　学・時代考証学会編『地域と語る大河ドラマ・時代劇―歴史都市彦根からの発信―』サンライズ出版，23-42.